

# 高岸税務会計事務所通信

当税理士事務所は気軽に相談でき、親身に  
相談にのる税務・財務のスペシャリストです

## 高岸税務会計事務所

〒569-0803 大阪府高槻市高槻町 9-19 卍ブレ 202

電話：072-683-0230 FAX：072 - 683-0376

<http://www.gishitax.com/>

mail：[info@gishitax.com](mailto:info@gishitax.com)

お気軽にお問合わせ下さい 072-683-0230



ビールには、不安を和らげる効果がある  
そうです。今年の新入社員は「ビジネス  
社会を生き抜くのに必要なものは？」の  
質問で、バブル期入社組に比べ「忍耐力・  
根性」の回答が2倍以上。先行き不安か  
らの結果でしょうが、頑張りすぎも体に  
毒です。こんな時期は「とりあえず、ビ  
ール！」で息を抜いてあげたいですね。

## 【追加経済対策で中小企業の交際費枠が拡大】

個人事業では、業務に直接必要なものであれば全額経費  
になりますが、法人では少し違ってきます。これは、法  
人と個人事業の大きな違いのひとつです。税法による交  
際費とは「会社が得意先や仕入先、その他事業に関係の  
ある人への接待、慰安などの費用」のことをいいます。  
交際費は外部に対してという意識が強いですが、税法で  
は自社の役員や従業員、株主なども対象となることがあ  
ります。

その交際費ですが、平成二十年度  
までは資本金が1億円以下の法人  
に対して「年間400万円の90  
%」が損金（経費）として認めら  
れました。



しかし、急激に悪化する経済を下  
支えるため、追加経済対策として、平成二十一年度か  
らは「年間600万円の90%」に拡充されました。つ  
まり、600万円の交際費を使つと、平成二十年度の場  
合は、そのうちの400万円の90%である360万円  
が損金になるのに対して、平成二十一年度では600万  
円の90%である540万円が損金となります。その差  
は「180万円」。仮に法人税率40%で計算すると、  
今回の「交際費損金算入枠の拡充」により、72万円の  
節税ができることとなります。このような時期ですか  
ら、政府の経済対策など漏らさず活用していきたいです  
ね。また、少しでも疑問に思うことなどがありましたら、  
いつでもお気軽にご相談ください。

## 【「探究心」や「知的好奇心」への刺激がブームを呼んでいます】

小学校の课外授業の一環である社会科見学に、積極的に参加する大人が今増えていま  
す。ビールや牛乳、醤油など身近な食品の製造過程を知ることができる工場見学は、  
無料である上に試食やお土産のおまけまでついて家族連れに人気です。一方、裁判所  
や証券取引所、地下トンネルや発電所といった公的機関やライフラインの見学は、現  
代の日本を深く多面的に理解する喜びがあります。お徳感だけではなく、探究心や知  
的好奇心への刺激がブームを呼んでいるようです。



## 【今月の教えてキーワード：第三セクター（三セク）】

国や地方自治体と民間企業が共同で出資して設立した法人。公企業を第一セクター、私企業を第二セクターとし、それらとは異なる第三の方式による法人という意味からこう呼ばれる。その形態はさまざまだが、表面上は私企業として設立され、その資本のほとんどを地方公共団体などが出資するケースが目立つ。つまり「株式会社 第三セクター」という訳ではない。また、事業の見通しの甘さなどから経営が悪化しているものも多い。

## 【「100点でした」と言えるまで】

盲目の日本人ピアニスト辻井伸行さんが、第13回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで優勝した雄姿に感動したのは記憶に新しいところです。ハンディキャップを克服しての快挙など



と賞賛されましたが、コンクールでの演奏は純粋に素晴らしく、盲目であることをあえて持ち出す必要があるのかと疑問に思うほどの「ブラボー」でした。というより、最上級を意味する「ブラビッシモ」です。

その一方で、クラシック音楽の演奏から個性がなくなっているという意見があります。クラシックは“再生ミュージック”とも言われ、当時の作曲家の音楽性を尊重しながら曲を解釈するので、「音楽を奏でる」というより「音楽を作る」という表現のほうがしっくりきます。技巧的な演奏だけなら、曲によっては子どもでもできるでしょう。しかし、内面から演奏するには大局観のようなものがないと難しいのです。ピアニストで作曲家のファジル・サイ氏はそれを「自らの“内なる声”」と表現しています。素人判断でも辻井さんのピアノは確かに「内なる声」でした。コンクールでの演奏の出来ばえを訊かれ、「100点でした」と答えた笑顔からそれがうかがえます。快挙と称えるなら、まずはその点ではないでしょうか。相変わらずの不景気に多くの経営者が嘆いています。経済全体が低迷しているのだから自分の会社だけが頑張っても仕方ないと、頭の上を嵐が通り過ぎるのを待っています。とはいえ強風に耐えられるのはレンガの家だけで、藁や木の枝の家は吹き飛んでしまうかもしれません。そこで「うちの会社は藁の家だ」と両手を上げたらおしまいですが、「うちの会社はレンガの家だ」と慢心すれば、残念な結果になったアメリカの自動車業界とまったく同じ道をたどることでしょう。

こんな時代に全天候型の商売のヒントがあるとしたら、今できることを今やるだけです。「やってるつもり」ではなく、「100点でした」と言えるまでブラビッシモでやることです。規模こそ違え過去にも嵐はありました。それを耐え抜いた経験による「内なる声」こそが、不況の今、使える商売のヒントだろうと思います。



今を生きる！

## 先人の言葉

日本を代表する映画監督である黒澤明監督の作品より。人間には存在価値や存在意義など大した問題ではなく、そこにいられるだけで十分であり、生き続けて下さい。

## シャープペンの「クルトガ」

シャープペンで書き続けていると、芯が斜めに減って線が「だんだん太くなる」経験ってありますよね。

この「クルトガ」は、芯がクルッと回転し、常に芯先がトガっている逸品です。



【三菱鉛筆：クルトガ】

(高岸税務会計事務所)